

議長（明和善一郎君） 1番 田村 馨君。

1番（田村 馨君） それでは、ただいま議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問をさせていただきます。

私からの質問は2項目でございます。

まず1つ目の質問は、さきの川崎議員さんの質問に続きまして、村内の公共交通、デマンド交通システム導入の可能性について質問させていただきます。

現状、舟橋村では、富山地方鉄道の電車が走っている以外に公共交通機関はなく、車の運転をしない高齢者世帯の方や自動車を運転できない方が、日々の買い物や、特に病院への通院などに不便を来しております。また、そのために移動手段の確保が求められています。

そのため、舟橋村社会福祉協議会において外出支援サービスが実施されていますが、対応範囲が村内限定となっております。

そこで、住民の方に実際に私がお話を伺ったところ、特に要望されたのが村外の病院への通院に関してでありました。お話の内容は、「病院に行くのに片道四、五千円のタクシー代はとても払い切れない」、また「仕事を持っている子ども夫婦の協力にも限界がある」、そういった話を伺いました。

また、社会福祉協議会のほうにも、自宅から目的地に直接移動できる、いわゆるドア・ツー・ドアの環境整備が強い要望として出されていると聞きます。

このデマンド交通システムは、地域のタクシー会社や自治体の車などを乗り合いで利用し、予約、配車、運行の3つを一元化に管理することによって、低コスト、低料金を実現する新交通システムです。既に全国で導入実績があり、富山県内でも射水市で、そして本年7月27日より入善町でも実施されております。

また、デマンド交通システムは、固定ルートを走る路線バスやコミュニティバスとは異なり、自宅などのあらかじめ登録していただいた地点から目的地までをタクシー感覚で利用することが可能な新たな公共交通サービスであります。

買い物代行や荷物宅配などの多目的サービスの実現、デマンド交通システムはドア・ツー・ドアサービスが基本でありますので、買い物代行や荷物宅配などの多目的サービスへの展開が可能になり、高齢者の生きがい創出やまちの活性化などの効果も期待でき、今後の住みやすいまちづくりにも必要ではないかと思われまます。

そこで、当村でのデマンド交通の導入に向けての可能性についてお聞かせいただきたい

いと思います。

続いて、2つ目の質問は、公園への健康遊具の設置についてであります。

高齢者の健康増進を目的として、身近な公園に健康遊具を設置する自治体が増えてきていると聞きます。隣の富山市でも、県総合運動公園や岩瀬スポーツ公園などに設置されております。

健康遊具は公園に設置する遊具の一種で、高齢者はもとより、年齢を問わず誰もが自分の体力に合わせてストレッチや筋力アップなどを気軽に行えます。特に激しい運動ができない高齢者の健康維持や健康増進への効果が期待されるとし、全国的にも注目され始めています。

誰もが自分の時間や体力などに合わせて気軽に運動のできる健康遊具が身近にある公園づくりは、今後の高齢化社会に向けて大事なことと思います。

現在、舟橋村創生プロジェクト総合推進会議においても、この公園の活用についての議論もされておりますが、オレンジ・パークなど既存の公園に対してもこういった遊具の設置を進める考えはあるかお尋ねいたします。

議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 1 番田村議員さんのご質問にお答えいたします。

初めに、村内の公共交通についてであります。

先ほどの川崎議員の質問にも答弁いたしましたが、本村では今後着実に高齢化率が高くなっていくことや、行政区域内に多くの商業施設等を有する自治体とは異なり、日常の買い物や医療機関などへの村外ニーズが高い地域であると理解をしております。

また、現在本村が実施しております高齢者運転免許自主返納者生活支援事業や、舟橋村社会福祉協議会が実施しております生活支援サービスや外出支援サービス施策だけで100%満足できるサービス提供をしているとは言えないとも思っております。

議員ご指摘のデマンド型タクシーの導入についてでありますけれども、本村から車で20分圏内には、皆様が希望する病院や買い物施設が多数立地しております。このことから十分なニーズ調査が必要であると考えておまして、社会福祉協議会と連携を図りながら、高齢者の方にとりまして最も利便性の高いサービスを検討してまいりたいと思っております。

次に、健康遊具の設置の件についてのご質問にお答えをいたします。

議員ご指摘のとおり、健康遊具の設置は、県内はもとより全国的にも広まっております。

して、身近な公園に健康遊具があり気軽に運動ができることは大変魅力的であると思っております。

しかし、健康遊具を設置するだけで住民の健康度が高まるわけではなく、住民の活用方法を含め、健康交流が促進されるような仕掛けづくりが重要であると考えております。

全国的な健康遊具の設置の増加の一因といたしましては、少子高齢化の進展が原因だと私は考えております。公園そのものの利用者が子どもたちから高齢者へとシフトした地域におきましては、健康増進を図ることで医療、介護費を抑制することを目的に健康遊具が導入されております。

本村のオレンジ・パークなどのコミュニティ空間整備事業につきましては、子育て共助のまちづくりモデル事業の中で検討を進めております。また、公園のレイアウトはこれから協議を進めてまいるところであります。

子育て共助のまちづくりにはエイジレス世代の活躍も不可欠でありますので、健康遊具がその一助となるということになれば検討項目にも加えてまいりたいと考えておりますので、ご理解をお願い申し上げまして答弁とさせていただきます。